

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】令和 4 年 7 月 6 日(2022.7.6)

【国際公開番号】WO2021/106900

【出願番号】特願 2021-561436(P2021-561436)

【国際特許分類】

A 6 1 B 17/70(2006.01)

A 6 1 B 17/86(2006.01)

【F I】

A 6 1 B 17/70

A 6 1 B 17/86

10

【手続補正書】

【提出日】令和 4 年 5 月 2 日(2022.5.2)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0016

【補正方法】変更

【補正の内容】

20

【0016】

ところで、腸骨 230 は仙骨 220 に対して横方向に位置しているので、スクリュー 2 は横方向に延在する。例えば、右側に位置するスクリューアセンブリ 1 のスクリュー 2 は右側に延在し、左側に位置するスクリューアセンブリ 1 のスクリュー 2 は左側に延在する。つまり、スクリュー 2 の結合部材 3 に対する回転範囲は、スクリューアセンブリ 110 とは異なって、等方的である必要がなく、結合部材 3 に対して片側に広ければよい。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0095

【補正方法】変更

【補正の内容】

30

【0095】

医療従事者は、ヘッド 22 をアウター部材 5 へ挿入できるように、仮想中心軸 Q2 のまわりでヘッド 22 を回転させる。これにより、図 10 の姿勢で、ヘッド 22 がアウター部材 5 に挿入される。ヘッド 22 の挿入後には、上述のように、干渉部 26 が移動空間 H1 内に位置するように、ヘッド 22 を中心としてスクリュー 2 を変位させ、インナー部材 4 を下側に移動させる。これにより、ヘッド 22 の回転範囲が、基準回転位置を含まない回転範囲 R2 に制限される。言い換えれば、スクリュー 2 のヘッド 22 をアウター部材 5 の下側開口 5b から抜けにくくすることができる。

【手続補正 3】

40

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0102

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0102】

図 23 の例では、スクリュー本体 21 はヘッド 22 を中心に回転することにより、アウター部材 5 の下端部の一部に当接可能である。具体的には、図 23 の例では、インナー部材 4 の円弧柱面 41ca の径がより大きく設定されている。よって、ヘッド 22 を図 23 の左側から右側に向かって回転させると、干渉部 26 がインナー部材 4 の円弧柱面 41ca に当接するよりも前に、スクリュー本体 21 がアウター部材 5 の下端部に当接する。つま

50

り、本実施形態では、ヘッド 2 2 の回転範囲 R 2 1 はスクリュー本体 2 1 とアウター部材 5 の下端部との当接によっても規定される。図 2 3 の例では、回転範囲 R 2 1 のうち最も右側の位置が、アウター部材 5 の下端部とスクリュー本体 2 1 との当接によって規定されるが、この時インナー部材 4 と干渉部 2 6 は当接しない。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 0 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 0 6】

10

図 2 6 は、他の実施例としてのアウター部材 5 の構成の一例を概略的に示す図である。図 2 6 に例示するように、部分 5 1 e は、アウター部材 5 の仮想中心軸 Q 1 に垂直な面に対して、傾斜していても良い。より具体的には、部分 5 1 e は所定の仮想平面上に沿っており、当該仮想平面が仮想中心軸 Q 1 に垂直な面に対して傾斜していてもよい。図 2 6 の例では、部分 5 1 e は楕円の一部に沿う形状を有し、その両端から離れるにしたがって、第 1 開口 5 a 側（図 2 6 では仮想中心軸 Q 1 に沿う上側）に向かうように傾斜している。このような構成によると、アウター部材 5 の下端部が規制するスクリュー本体 2 1 の回転範囲の上限を片側において大きくすることができる。図 2 6 に即して言えば、スクリュー本体 2 1 の回転範囲の上限を右側において大きくすることができる。仮想中心軸 Q 1 に垂直な面に対する仮想平面の傾斜角度は、例えば 1 ~ 2 0 ° である。

20

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 0 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 0 7】

なお、部分 5 1 e が仮想中心軸 Q 1 に垂直な面に対して傾斜している場合（図 2 6 ）、部分 5 1 e は当然に第 1 領域 5 1 f および第 2 領域 5 1 g を有する。例えば、第 1 領域 5 1 f を部分 5 1 e の両端部分とみれば、その両端部分の間の部分を第 2 領域 5 1 g とみることができる。

30

【手続補正 6】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 1 8

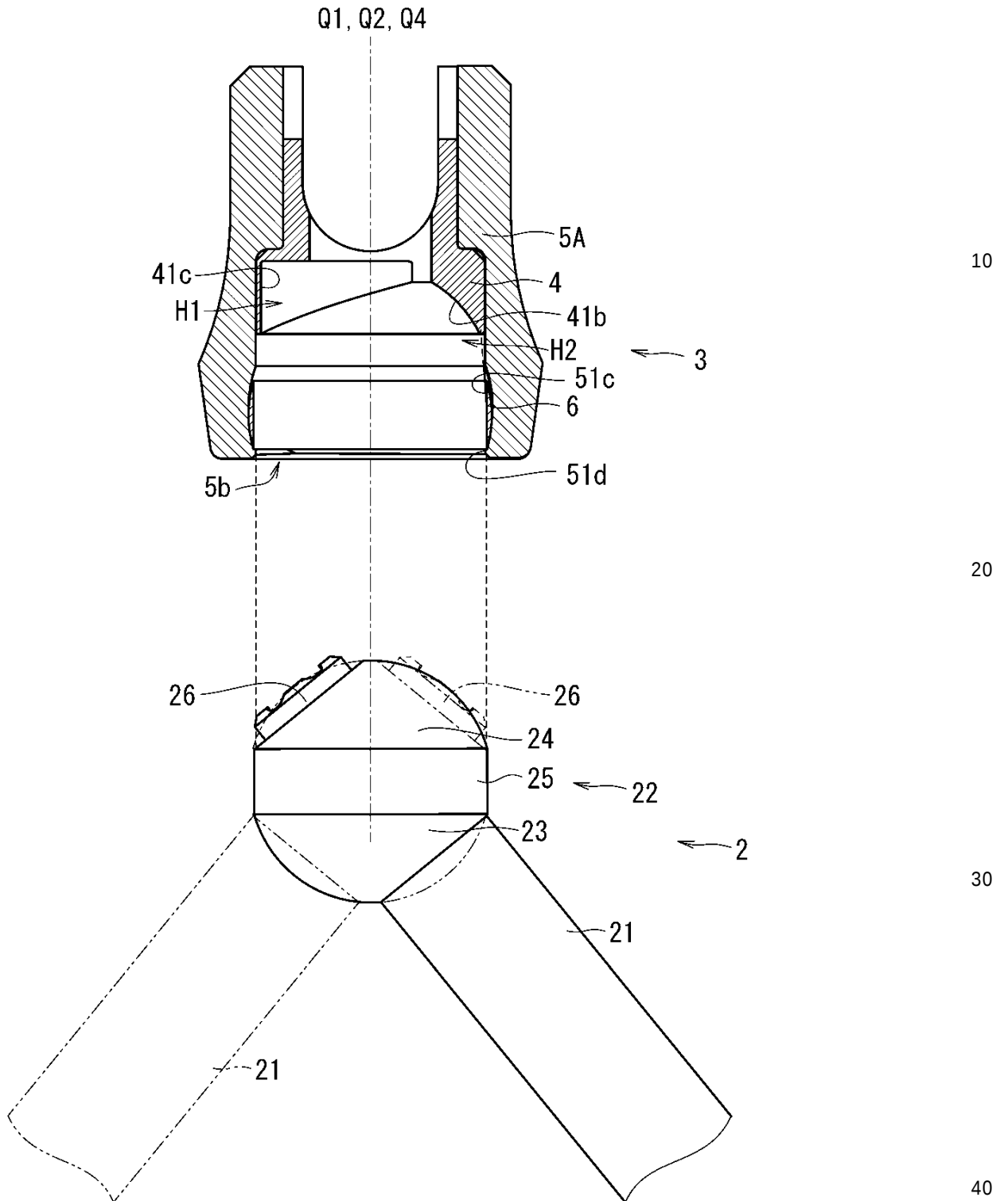
【補正方法】変更

【補正の内容】

40

50

【図 18】



【手続補正 7】

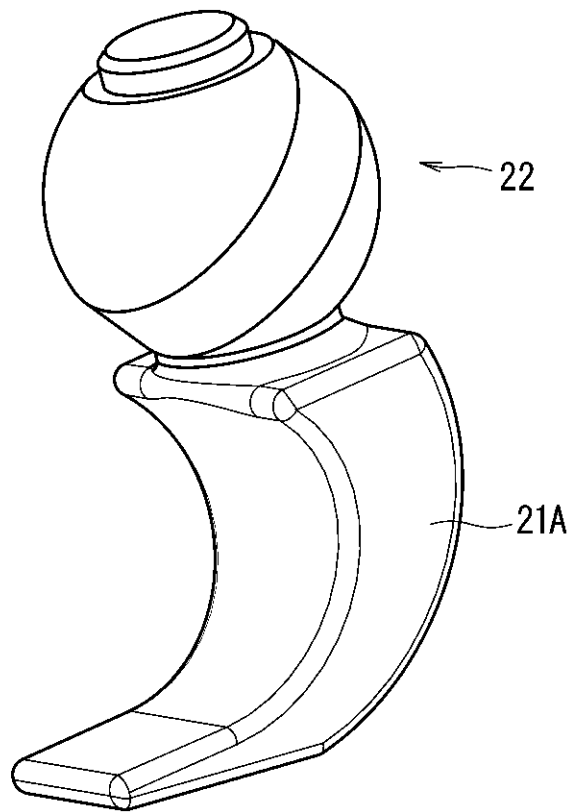
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 2 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 図 2 2 】



10

20

30

40

50